

緊急 トップインタビュー

鐘崎（仙台市）

代表取締役社長 嘉藤 明美さん(57)

ウィズコロナ時代を生き抜く地元経営者らに聞くシリーズ。今回は笹かまぼこ製造・販売の「鐘崎」（仙台市）代表取締役社長、嘉藤明美さん(57)です。



—影響は。

春先は、売り上げが7割減。お土産需要が大きい笹かまは観光・出張の自粛で大打撃を受けました。とはいえ、商品は鮮度が命。作り置きはできません。創業74年で初めて、工場を隔日で休止せざるを得ませんでした。窮状を察した地元のお客さまに「こういう時だから地元の品を」とお中元などのギフトに選んでもらい、支えていただいています。感謝しかありません。

—「七夕」に注力しています。

地域の魅力を広く発信しながら伝統を次代に継承していくことは、地元企業の使命。仙台を代表する「七夕まつり」はその象徴です。

新たな商品開発にも挑戦



弊社は七夕を通年楽しめる施設として2005年、若林区鶴代町の本社・笹かま館に「七夕ミュージアム」を開きました。今年の七夕飾りは、コロナ禍で在宅勤務となったスタッフらが約7000個の花飾りを手作りし、完成させました。仙台七夕まつりが中止となる中、社員一丸で取り組むことで未来に希望を持つ一助にもなり

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

ました。

—「未来はやってくるものではなく、つくるもの」との考えをお持ちです。

部門間の垣根を越え会社を進化させる取り組みが稼働しています。新たな商品開発にもチャレンジしています。また今月、店舗スタッフの制服を一新しました。このような時期だからこそ七夕への関わりも含め、自分たちが自らテンションを高めていくことで、街を盛り上げていく覚悟です。

information

本社がある仙台東部工場団地の企業が連携し、今夏、「星に願いを」と銘打った新商品を発売。鐘崎の笹かまぼこ、こだまのどら焼き、鳴海屋紙商事のミニ七夕飾りのセットで税込み4700円。限定500個。連絡先は鐘崎022(231)5141。

企画・制作／河北新報社営業局